

長野県北部におけるフモトミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz. とみられる木本の生育確認

井浦 和子*・藤田 淳一**

はじめに

フモトミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz. は東海地方や北関東に生育し、ミズナラ *Q. crispula* Blume var. *crispula* と比べて葉の鋸歯の先は丸みをおび、葉身は幅広く大型で、堅果は丸く大型で先がへこむのが特徴である(林 2014)。従来ユーラシア大陸原産のモンゴリナラ *Q. mongolica* Fisch. ex Ledeb. と扱われてきたが、大場秀章によりコナラの亜種としてフモトミズナラと命名され、芹沢俊介によりミズナラの変種に組み替えられている(芹沢 2008)。また、東海地方と北関東に生育するものでは系統が違うのではないかという指摘がある(芹沢 2008)。

フモトミズナラは長野県内においても南部の飯田市で確認されている(蛭間 2009)。今回は、地理的に北関東に近い長野県北部高山村においてフモトミズナラとみられる木本の生育を確認したので報告する。

確認状況

井浦は長野県北部に位置する高山村の林内で、フモトミズナラの特徴を有する堅果を確認していた。これを再確認するため 2020 年 9 月 21 日に井浦と藤田、10 月 11 日に井浦が調査に入った。落下しているフモトミズナラとみられる堅果は確認できたが、不作の年のようで結実した状態では確認出来なかった。堅果が集中して落下している場所で枝を採取し標本とした。同時に、樹皮を撮影し、周辺の堅果の特徴を記録した。調査地は、山間部集落の裏山にあたり、急峻な南斜面にコナラ *Q. serrata* Murray などが生育する林で、樹齢がある程度揃っており、大径木は一度伐採され萌芽した痕跡があるため、かつて薪炭林として使われていたと考えられる。区有林として現在でも間伐が行われるなど管理がなされている。フモトミズナラとみられる堅果は、アカ

マツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. も生える標高 900 m 付近の尾根に近い場所で多く見られ、複数個体が生育していると考えられた。

標本、樹皮、周辺で採取された堅果を図 1～4 に示す。特徴を以下に挙げる。

- ・葉：鋸歯は三角状で、葉の幅、大きさもミズナラに近い。最大幅の位置は中心に近い。葉柄は短い。葉裏は脈上にわずかに毛がある。星状毛はみられない。
- ・樹皮：ミズナラのように薄く剥がれず、コナラに近い。
- ・堅果：ミズナラより大きく、ずんぐりしていて、先が凹んでいる。殻斗が大きく、表面の凸凹が大きい。

全体として、葉柄の短いミズナラに似た葉であるが、樹皮が薄く剥がれずコナラに似ていることと、周辺で先が凹む大きな堅果がみられたことから、フモトミズナラの可能性が高いと考えられた。一方、葉の鋸歯は三角状で、フモトミズナラの特徴である丸みがあまりみられない。生育場所は標高 900 m とフモトミズナラにしては高く、ミズナラの影響を受けている可能性も考えられる。

【証拠標本】

標本番号*¹

IUR200921-15・NAC198558 (採集日：2020 年 9 月 21 日、採集者：井浦和子、採集地：長野県上高井郡高山村宮関、標高：870 m)

IUR201011-4・NAC198563 (採集日：2020 年 10 月 11 日、採集者：井浦和子、採集地：長野県上高井郡高山村宮関、標高：910 m)

*¹：IUR は個人番号、NAC は長野県環境保全研究所植物標本庫の標本番号である。

今後の課題

今回は堅果が付いた枝を確認出来なかったため、

* 井浦和子 〒382-0831 長野県上高井郡高山村高井 2866

** 藤田淳一 〒390-0313 長野県松本市岡田下岡田 243-2
サンプラス I アルブ 203 号

1 個体において葉、堅果、樹皮の形態を確認し、フモトミズナラと確認する必要がある。高山村誌では、今回確認の場所に近く標高 600 m 付近でナラガシワ *Q. aliena* Blume の記載があり（和田 2004）、今回の確認個体との関係も含め、村内の広範囲での分布を確認したい。また、飯田市や東海地方、北関東のフモトミズナラとの関係性も含めて今後の課題である。

謝辞

長野県環境保全研究所の標本登録にあたっては、

尾関雅章氏、柳澤衿哉氏にお世話になりました。

参考文献

- 林将之 (2014) 山溪ハンディ図鑑 14 樹木の葉 pp335., 山と溪谷社
 蛭間啓 (2009) 飯田市でフモトミズナラ（モンゴリナラ）の生育を確認 伊那谷自然史論集 10, 81-82. 飯田市美術博物館
 芹沢俊介 (2008) 東海地方丘陵地の「モンゴリナラ」 シデコブシ第 1 巻第 1 号, 54-55.
 和田清 (2004) 高山村誌 第 1 巻 自然編 p 349., 高山村誌編纂委員会

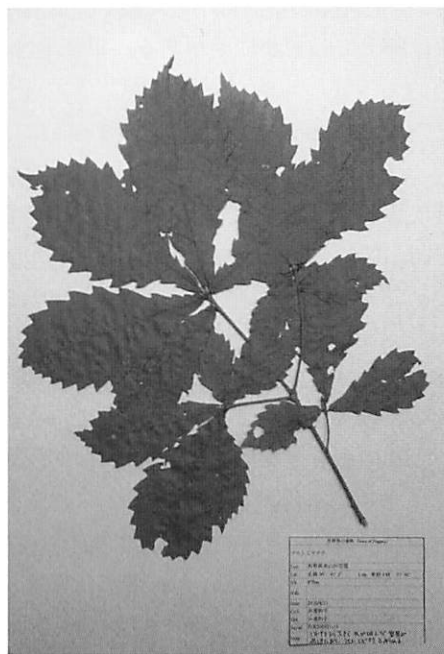


図 1 フモトミズナラとみられる個体
(IUR200921-15: 高山村 2020.9.21)

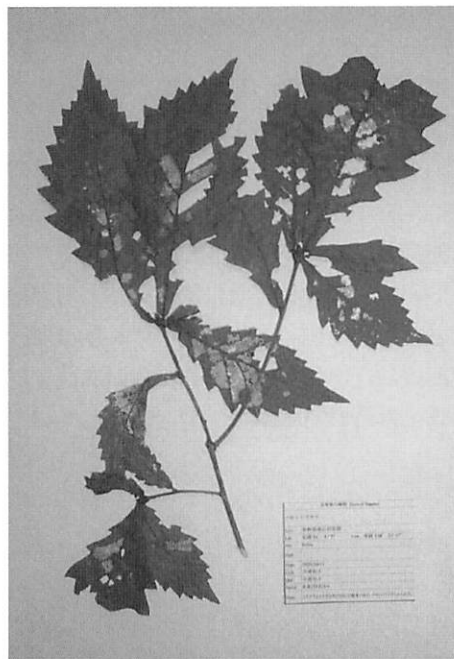


図 2 フモトミズナラとみられる個体
(IUR201011-4: 高山村 2020.10.11)



図 3 IUR201011-4 の樹皮

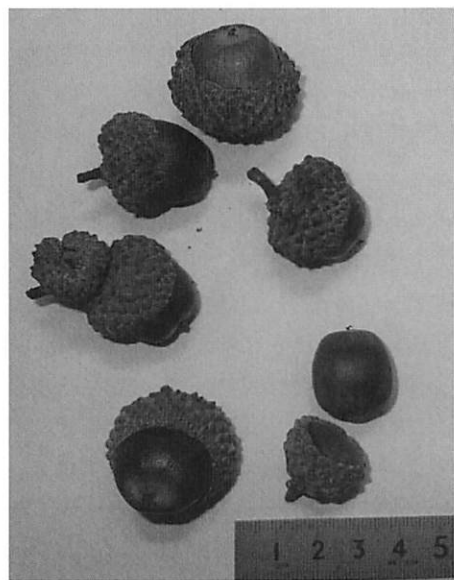


図 4 堅果 (IUR201011-4 の個体周辺)